

# 地下鉄東西線の 安全な運行を支えます

12月6日の開業を目指して準備を進めている地下鉄東西線。いよいよ、本線での車両走行が始まりました。今回は、安全・安心な運行を最前線で支える交通局職員を取材しました。



▲交通局の中村係長（左）と佐藤主任。「全15編成60両製造される車両は、既に8編成32両が搬入されました」

今年2月にレール締結式を終えた地下鉄東西線。3月3日には、本線入線試験が行われ、車両が初めて走行しました。

この試験に参加した一人が、東西線車両の設計を担当する、交通局東西線建設本部・中村浩係長です。「東西線はカーブが多いため、車両がスムーズに曲がれるように、構造的な工夫をしています。今回の試験で、安定した走行が確認できました。また、乗務員室と客室とを仕切る窓を大きくしたので、小さなお子さんでも前方が見えやすく、運転士気分が楽しんでもらえると思いますよ」と話します。運転を担当したのは、高速電車



▲乗務員室後方の窓からの眺め



▲本線入線試験で荒井駅に到着する車両（上）、指さしで安全を確認し、出発します（下）

部・佐藤英治主任。南北線を10年以上運転してきたベテランです。

「青葉山―川内駅間の約6パーセントの勾配も難なく上り、リニア方式の車両の力強さを実感しました。また、コンパクトで小回りが利き、静音性にも優れています」。

佐藤主任は、夏ごろから始まる東西線運転士の養成にも携わります。「東西線は南北線と同じワンマン運転で、異常の際は一人で対応しなければならぬので、あらゆる状況を想定したマニュアル作りを取り組んでいます。先日は約14キロメートルの線路を3日間かけて実際に歩き、避難誘導方法等も確認しました」と教えてくれます。「新しい地下鉄の誕生までとわすれず、安心してご乗車いただけるよう、万全の準備で臨みたい」と二人は口をそろえていました。